

# データ解析

<http://coconut.sys.eng.shizuoka.ac.jp/data/06/>

静岡大学工学部

安藤和敏

2006.11.16

# 第5章 Excelで学ぶ判別分析

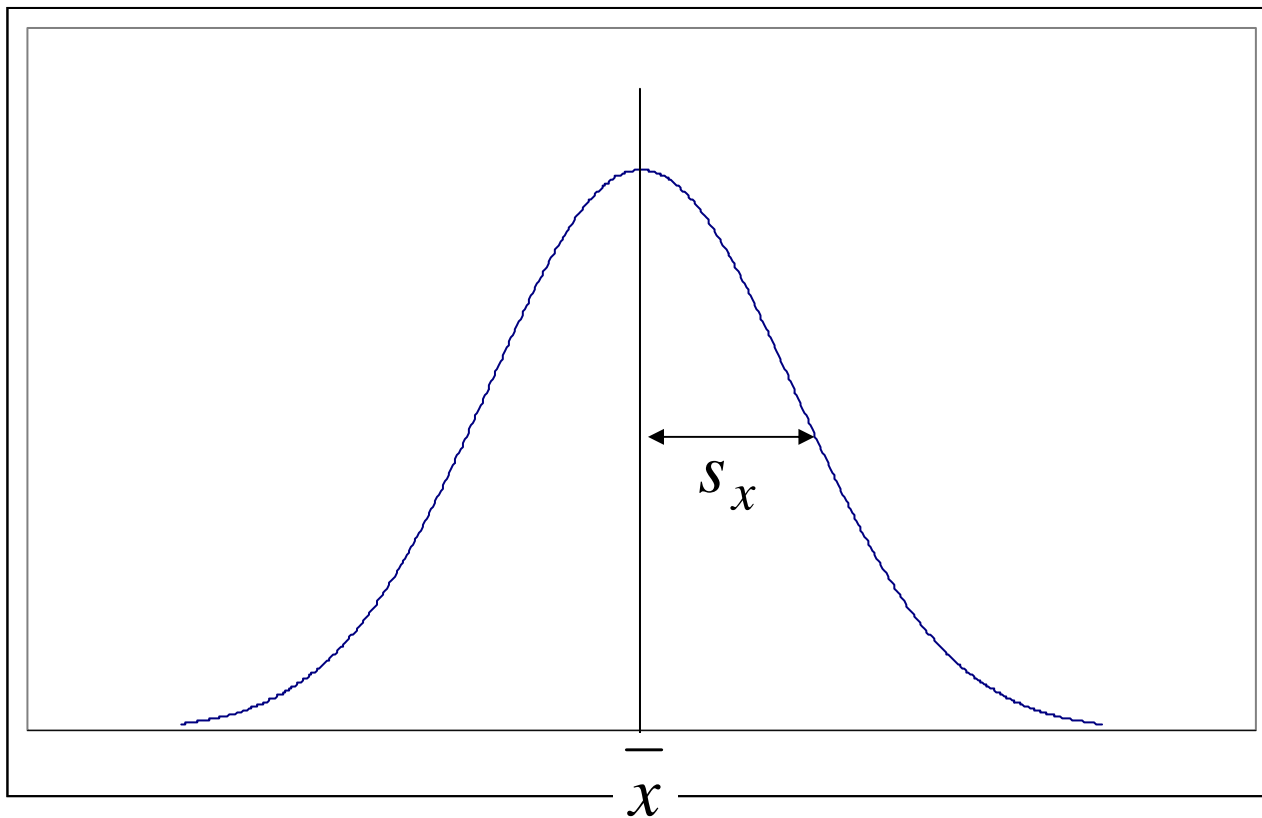
5-1 相関図で判別分析

5-2 線形判別関数を利用した判別分析

5-3 マハラノビスの距離を利用した判別分析

# 標準偏差 $s_x$

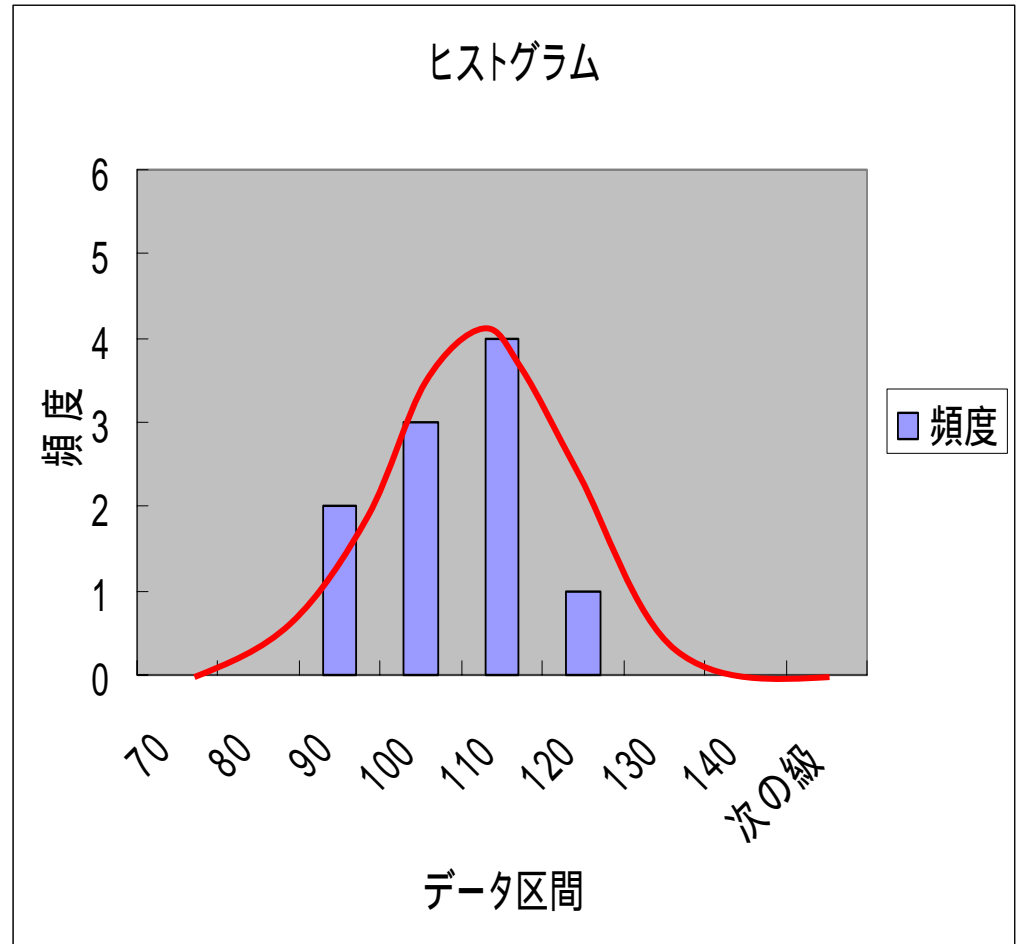
$$s_x = \sqrt{s_x^2} = \sqrt{\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2}$$



# 1変数のマハラノビスの距離

No	x
1	109
2	82
3	103
4	87
5	102
6	100
7	93
8	101
9	115
10	99

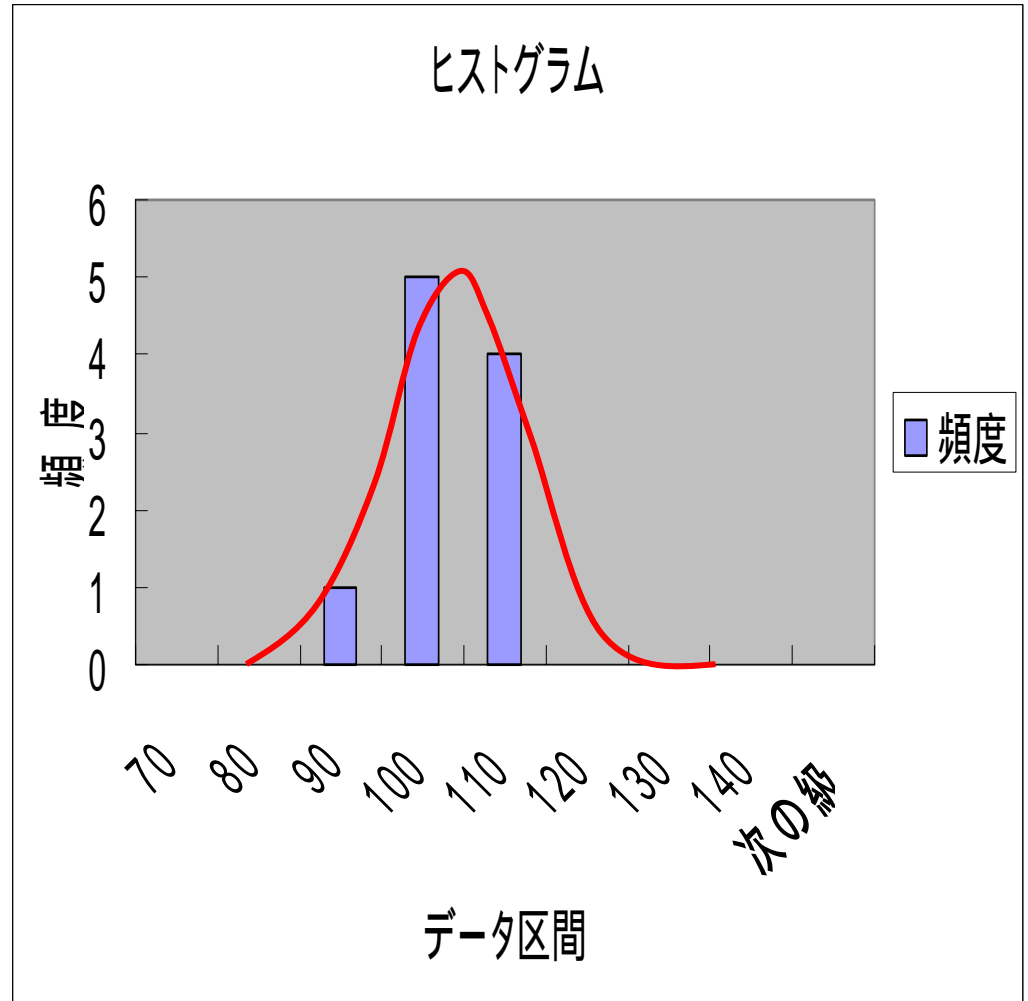
平均 99.1  
分散 85.49  
標準偏差 9.24608



# 1変数のマハラノビスの距離

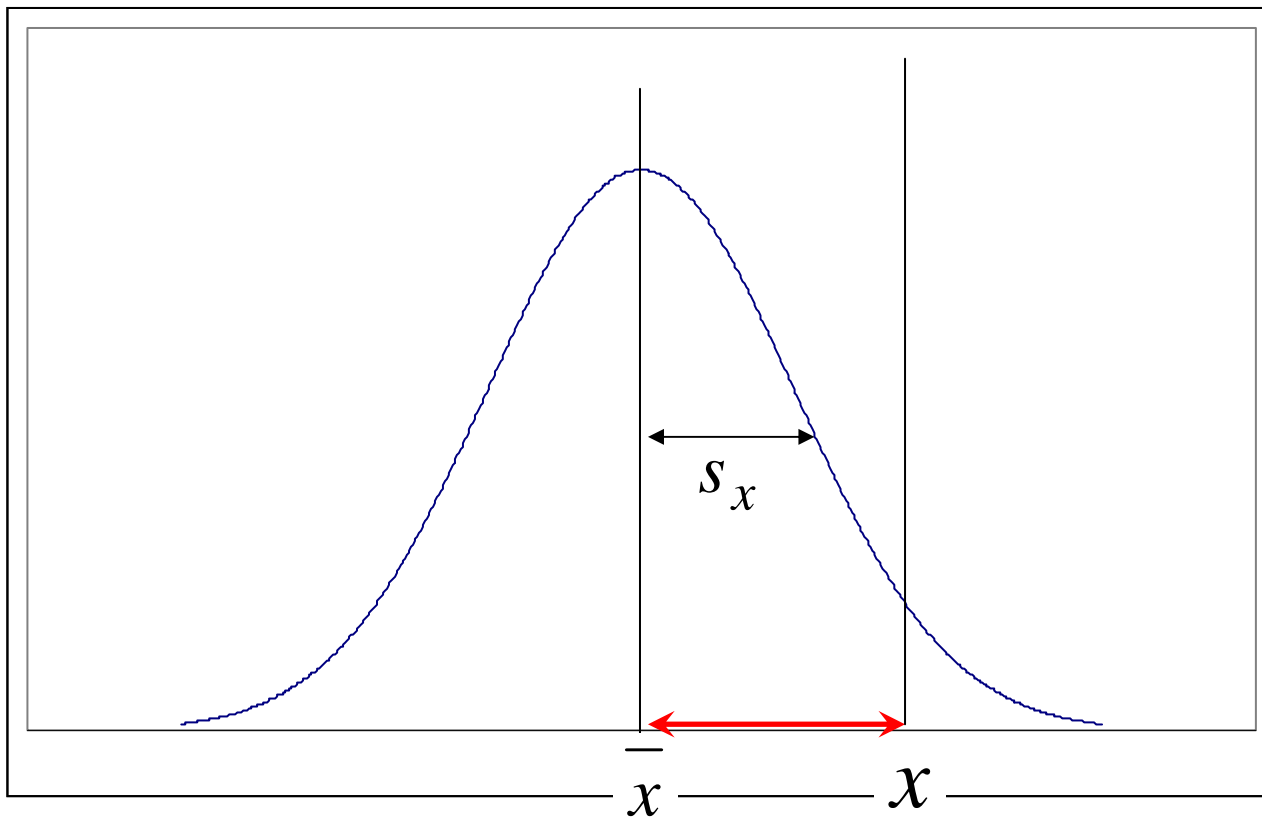
No	x
1	95
2	89
3	98
4	91
5	103
6	102
7	97
8	99
9	103
10	107

平均 98.4  
分散 28.64  
標準偏差 5.351635



# 1変数のマハラノビスの距離

$$D = \frac{|x - \bar{x}|}{s_x}$$



# 多変数のマハラノビスの距離

1変数のマハラノビスの距離は、

$$D^2 = \frac{|x - \bar{x}|^2}{s_x^2}$$
$$= (x - \bar{x}) \left( s_x^2 \right)^{-1} (x - \bar{x})$$

と書くことができる。

# 多変数のマハラノビスの距離

2変数 $(x, y)$ のマハラノビスの距離 $D$ は,

$$D^2 = (x - \bar{x}, y - \bar{y}) \begin{pmatrix} s_x^2 & s_{xy} \\ s_{xy} & s_y^2 \end{pmatrix}^{-1} \begin{pmatrix} x - \bar{x} \\ y - \bar{y} \end{pmatrix}$$

と定義される.



# 多変数のマハラノビスの距離

3変数 $(x, y, z)$ のマハラノビスの距離 $D$ は,

$$D^2 = (x - \bar{x}, y - \bar{y}, z - \bar{z}) \begin{pmatrix} s_x^2 & s_{xy} & s_{xz} \\ s_{xy} & s_y^2 & s_{yz} \\ s_{xz} & s_{yz} & s_z^2 \end{pmatrix}^{-1} \begin{pmatrix} x - \bar{x} \\ y - \bar{y} \\ z - \bar{z} \end{pmatrix}$$

と定義される。

# マハラノビスの距離による判別

グループPの平均ベクトル

$$(\bar{x}_P, \bar{y}_P)$$

とグループPの分散共分散行列 $S_P$ を計算する。

グループQの平均ベクトル

$$(\bar{x}_Q, \bar{y}_Q)$$

とグループQの分散共分散行列 $S_Q$ を計算する。

# マハラノビスの距離による判別

各個体 $(x,y)$ に対してマハラノビスの距離

$$D_P^2 = (x - \bar{x}_P, y - \bar{y}_P) S_P^{-1} \begin{pmatrix} x - \bar{x}_P \\ y - \bar{y}_P \end{pmatrix}$$

$$D_Q^2 = (x - \bar{x}_Q, y - \bar{y}_Q) S_Q^{-1} \begin{pmatrix} x - \bar{x}_Q \\ y - \bar{y}_Q \end{pmatrix}$$

を計算し、

$D_P^2 < D_Q^2$  のとき $(x,y)$ をPに分類し、

$D_P^2 > D_Q^2$  のとき $(x,y)$ をQに分類する。

# Excelで学ぼう

ファイル: 第5章/5\_3